八雲町総合計画町民会議　事業・施策提案シート

教育・子育てグループ

課題テーマ	○子育て支援の輪を繋げ、広げていく地域づくり　　○子どもの人権が守られ、子供が主役になれる町づくり
提案事業・施策の名称	みんな幸せプロジェクト

提案事業・施策の内容

＜事業の内容＞
◇子育て支援のためのプロジェクトチームをつくる。
◇今ある事業（イベントなど）を活用して、気軽に話が出来る環境をつくる。
◇子どもたちにイベントを企画する場をあたえ、子ども達が主役になれる場をつくる。
◇子育て相談員として活動するための勉強会、学習会の開催。

＜参加者＞
◇行政、一般町民、学校の先生、子育てに興味がある方、子育ての支援をしたい方、イベントを企画したい方を基本に考えているが、興味がある方は誰でもＯＫとする。（学生も可）
◇チームは１０名～１５名程度の予定だが、最終的に各町内会ごとに子育て相談員を配置したい。

＜プロジェクトチーム会議での検討内容＞
◇月１回程度開催。町や民間が開催するイベント情報を集約し、参加できるイベントの決定を行い、相談のための場を確保するための検討を行う。
◇自分たちでイベントを企画する。あわせて、子供達にも企画・運営する場をつくるための検討を行う。

具体的な目標	期待される効果
◇子育てに悩む家庭の孤立を防ぎ繋がりを深める。 ◇最終的な目標は、各町内会に子育て相談員の配置。	◇相談しやすい環境 ◇孤立化を防ぐ ◇自ら企画することによる、地域の活力の向上 など

住民・地域の役割	町（行政）の役割
◇プロジェクトチームへの参加 ◇イベント等への参加・運営 ◇各地域の子育て世帯数や孤立していないかなどの情報発信 ◇経験し学んだことの地域への還元 など	◇子育てに関する情報提供。（データ化し、いつでも見られるようにする） ◇各イベント等への場所の提供 ◇プロジェクトチームへの参加 ◇人材育成のための研修会・学習会の開催 など

提案事業・施策の取り組みの図解（イメージ）

【背　景】
◇行政に相談した時に、たらい回しにされるのが嫌だ。
◇なんでも聞ける人がいて、どこに相談に行ったらよいか教えてくれる人がいない。
◇恥ずかしくて相談に行けない。自分の育て方が悪いと思ってしまう。
◇子育て支援に関する情報は、どこを見ていいかわからない。
◇学校が統合され、授業が終わるとスクールバスで帰ってしまう。

【問題点】
◇親に余裕がない、１人で考え過ぎてしまう。
◇町にどういう子育て支援制度があるか分かる人が少ない、うまく利用されていない。
◇学校以外で学ぶ場（遊ぶ場）が少ない。
◇気軽に相談できる人がいない。
など

プロジェクトチームの結成

【問題解決（案）】
◇みんな似たような悩みをもっていることを共有。
◇過去の相談事案についての情報提供。
◇行政には相談しにくいので相談員を配置し相談しやすい環境をつくる。（行政と相談者の橋渡し）
◇相談に来るのを待つだけではなく、人が集まっているところへも参加する。
◇子どもが主役になれる場の創出　　など

【課題・注意点】
◇考えの押し付けや、不安を煽らない。
◇価値観を押し付けない
◇○×で判断しない

【将来的には】
◇ますは、各地域に出向き、活動を知ってもらうことから始め、将来的には、各町内会に子育て相談員の配置を目指す。